【メ モ】

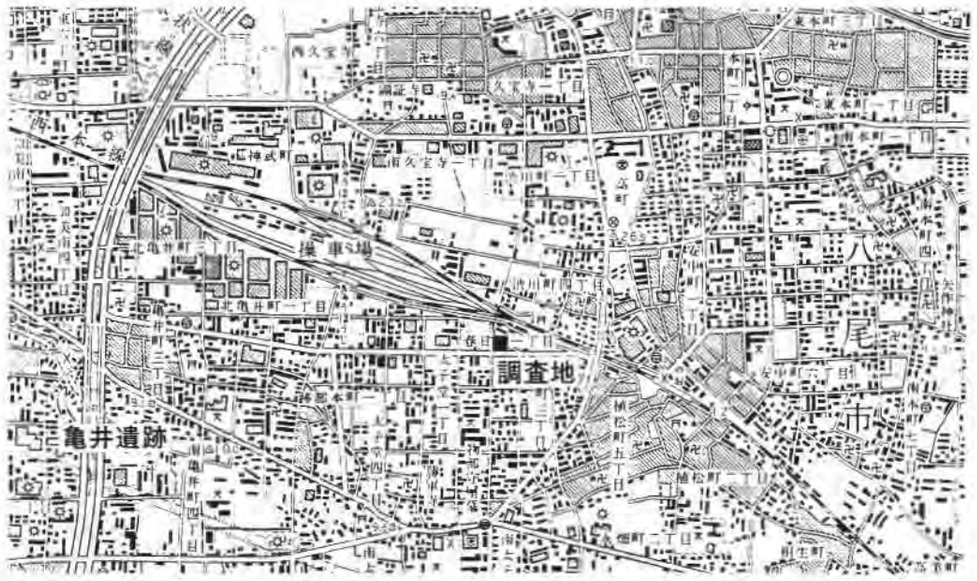
跡部遺跡 —春日町1丁目出土の銅鐸—

現地説明会資料 1989.11.12

跡部遺跡発掘調査委員会
(財)八尾市文化財調査研究会

＊はじめに＊

このたび、八尾市春日町1丁目で下水工事に伴う事前発掘調査を行っていたところ、平成元年10月24日に銅鐸が発見されました。この銅鐸は現地表から 約2.5m 掘り下げたところで、古墳時代初頭(約1700年前)の生活のあとを調査していた時に、穴のなかに丁寧に埋められた状態でみつかりました。この穴は銅鐸がすっぽり納められる程度に掘りくぼめられた穴で、銅鐸は、鰭を上下にして横向きに納められていました。この銅鐸のつくられた時代は弥生時代の中頃（約2000年前）であったと考えられます。



調査地周辺図

＊銅鐸が埋められた時代＊

この銅鐸が埋められた時代は、その後の時代に掘られた穴や溝などのかさなりの状況から、弥生時代の終末(約1700年前)以前であったことがわかりました。このように、銅鐸が埋められた時期が層位的にわかったのは全国的にもごく希なことです。

＊銅鐸について＊

銅鐸の起源は、朝鮮式小銅鐸に求める説が有力です。古い銅鐸には『舌(ぜつ)』が発見された例があり、内側に舌を吊して振って鳴らしたものと考えられています。ところが弥生時代の後期（約1,800年前）になると、本来の目的である『聞く銅鐸』から据え置いて『見る銅鐸』へと移り変わったことがうかがえます。これらの銅鐸は、農耕に関係した『まつり』に用いられた宝物であったと考えられています。しかし、弥生時代後期のある時に使われなくなり、地中に埋められたようです。埋めた目的はいろいろな説がありますが、いまだ謎のままです。

ここでみつかった銅鐸は、流水文銅鐸とよばれるもので、水が流れるような文様が描かれています。鰭には鋸歯文が描かれ、上部に１個、左右に４個づつの飾り耳がつけられています。鈕の形は偏平で、蕨手文と綾杉文で飾られています。

銅鐸出土状況

＊まとめ＊

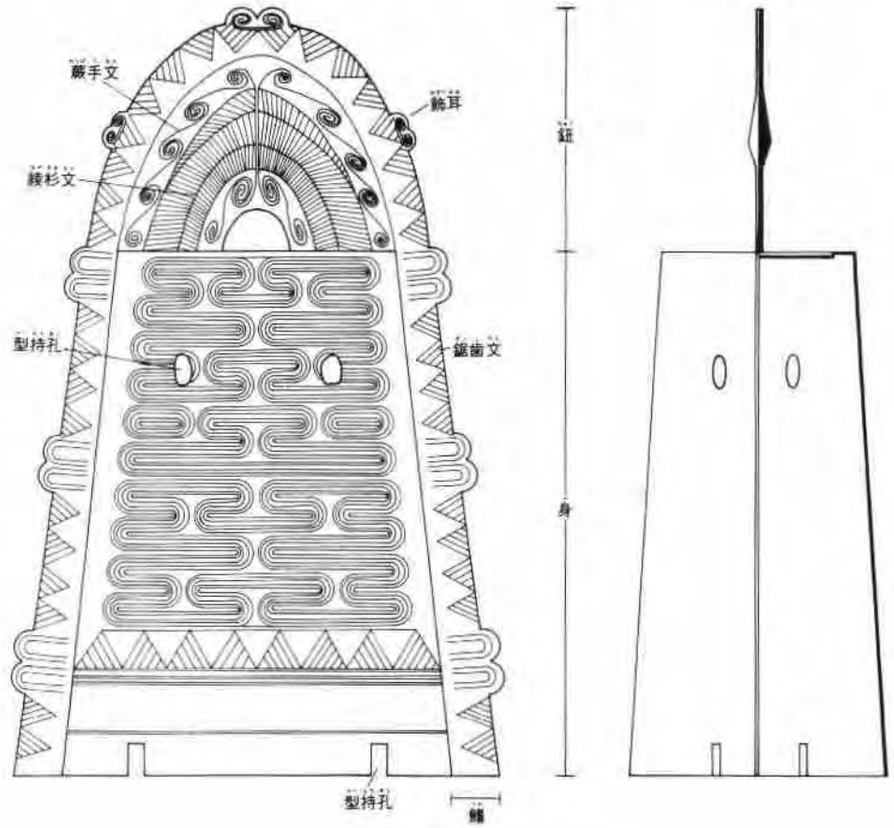
1．　銅鐸は、偶然発見されることが多く、今回のように発掘調査によって埋められた状態がわかったのは貴重なことといえます。

2．　この銅鐸が発見された場所は、当時、水辺の近くであったようで、低湿地に埋納されていたことも全国的にあまり例を見ないことです。

3．　粘土の中に埋まっていたのが幸いして、保存状態が極めて良好です。

4．　埋められた時代は、弥生時代の終末以前であることがわかりました。

5．　この付近には、弥生時代に河内平野の拠点的な集落であった亀井遺跡などがあり、今後、これらの遺跡との関連を検討する必要があります。



銅鐸略図